

アサヒ飲料（株）技術研究所



環境にやさしく安全安心な商品を作り続ける技術力

技術研究所では、どうやったら1本でも多く、安全でおいしい商品を製造できるか、効率的な生産方法、商品の品質、安全面での製造技術の向上を目指し、日々研究を重ねています。ラボスケールでの製造テストや新たなペットボトル容器の開発、容器包装技術の開発に加え、微生物分析や理化学分析といった中味の安全、安心を支える技術の研究も行っています。

安全・安心

お茶、コーヒー、ミネラルウォーター、果汁、炭酸、乳性飲料における微生物制御、迅速検出、同定技術の開発に取り組んでいます。

ブランド価値向上

商品設計技術の高度化・体系化につながる各種飲料含有微量成分解析技術の開発に取り組んでいます。

生産技術開発

テストプラントを活用し、試作段階から工場量産移行時の問題を事前に評価することや、商品魅力度や品質向上、効率化のための新たな製造技術開発を行っています。

容器開発

ユーザビリティの向上、軽量化等、魅力ある容器開発に取り組んでいます。PETボトルでは設計から量産展開まで一貫して行っています。

研究

■ 高温性嫌気性芽胞細菌の簡易検出・判別用のPCR試験法とMultiPlexPCR試験法の開発

(Food Science and Technology Research 2015 Vol.21 No.4 531-536)

高温性の嫌気性菌である *Thermoanaerobacter* 属、*Moorella* 属、*Thermoanaerobacterium* 属、*Caldanaerobius* 属などの菌は、非常に高い耐熱性をもった芽胞を形成し、高温で無酸素下でも増殖するため、缶コーヒーなどのレトルト殺菌で製造する飲料の高温販売時に変敗を起こしうる菌として管理が必要です。これらの菌は扱いが難しく従来の生化学性状では判別が困難であったのに対し、本研究によりDNAを利用して迅速かつ簡便に判別可能な試験法を開発することに成功いたしました。

■ 無菌充填ラインにおける節水技術の開発

((一社)日本清涼飲料研究会 第23回 研究発表会 奨励賞受賞)

環境負荷低減の観点から、生産工程における用水(PETボトル洗浄水)削減として、従来よりも半分以下の水量で同等の洗浄性能を

有した当社独自の技術を開発、お茶製造工場全ラインでの展開をいたしました。

■ 「三ツ矢サイダー」商品の軽量化

((公社)日本包装技術協会 第49回、第52回全日本包装技術研究大会 優秀発表者)

環境負荷低減を目標として、PETボトル、段ボールの軽量化開発に取り組み、国内最軽量クラスの軽量化を実現させ展開をいたしました。

■ 「六条麦茶」江戸切子デザインボトル開発

((公社)日本包装技術協会 2016年日本パッケージングコンテスト ジャパンスター賞・第54回全日本包装技術研究大会 優秀発表者、アジア包装連盟 アジアスター2016 アジアスター賞、(公財)日本デザイン振興会 2016年度グッドデザイン賞)

ブランド価値向上として、江戸切子伝統工芸士と共同で江戸切子デザインのPETボトルを開発、市場展開をいたしました。



— 私のチャレンジ —

100年後の未来まで愛されるPETボトルをこの手で世に送り出したい

PETボトルの容器開発を研究テーマにしています。当社では自分たちでデザインを描き、試作を繰り返しながら自社で製造します。飲料メーカーでするので容器は主役ではありませんが、目に留まり手に取ってもらえるデザインや持ちやすさなど、お客様に喜んでもらえるものを目指しています。近年、PETボトルは環境配慮の観点から薄肉化が進んでいます。それでも強度を高める必要性があり、ユー

ザビリティを考慮した形状は難しい課題です。また、工場では大量生産するために形状にも制限がかかります。そういった制約の中で試行錯誤を重ねてデザイン性、機能性を追求するところに苦労は伴いますが、完成品がお客様の手に届いた時には、大きなやりがいを実感します。100年後も同じ形で使われているような、長くお客様に愛される画期的な商品をつか開発したいと思っています。



技術研究所 生産技術G
伊藤 悠太 Yuta Ito

2013年
入社